



<WICI ニュースリリース>

報道関係 各位

第1回WICIジャパン「統合報告」表彰の審査結果と表彰式

World Intellectual Capital/Assets Initiative(「世界知的資本・知的資産推進構想」以下 WICI)の日本組織である WICI ジャパン(事務局 :東京都新宿区、会長 森田 松太郎)は、協力団体である「国際統合報告評議会(International Integrated Reporting Conference 以下 IIRC、英国ロンドン市、CEO:Paul Druckman)」が展開する事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする「統合報告活動(Integrated Reporting 以下<IR>)」に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、WICI ジャパン「統合報告」表彰制度を創設し、第1回の審査を行いましたので、その結果を報告いたします。

◎「統合報告」優秀企業賞・・・ペーパーベースの年次報告書を作成する伝統を承継し、株主・投資家向け報告を基軸にするか、あるいはCSR向け報告を基軸にするかのいずれであれ、財務・非財務のデータを統合し、企業の価値創造活動を簡潔に示し、企業の将来が見通せるようにするものについては、次の3社を表彰する。

伊藤忠商事株式会社 オムロン株式会社 株式会社ローソン (アイウエオ順)、

◎Web 統合開示特別賞・・・株主・投資家向け報告を基軸にするか、あるいはCSR向け報告を基軸にするかのいずれであれ、当該企業の特徴を概観できる年次報告を目次ないし索引と位置付けたうえで、ハイパーリンク等を活用してホームページ上の詳細データにアクセスできるようするものについては、次の2社を表彰する。

TOTO 株式会社 三菱商事株式会社 (アイウエオ順)

第1回 WICI ジャパン「統合報告」表彰授賞式は、2013年11月22日(金)13:35~14:00に大手町ファイナンシャルシティー カンファレンス・センターで開催する「WICI シンポジウム 2013」(プログラム等は WICI ホームページ:
<http://www.wici-global.com/symposium2013/>)の行事の一環として執り行います。

WICI ジャパン会長 森田 松太郎
WICI ジャパン「統合報告」審査委員会委員長 鈴木 行生

記

【審査目的】

事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする〈IR〉に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、WICI ジャパン「統合報告」表彰制度を創設することにした。併せて、「統合報告」の発行体が広くステークホルダーから受けた評価を次年度の「統合報告」の制作に反映できるようにすることを、本表彰制度の主たる目的とし、「統合報告」「コーポレート レポート」「サステナビリティ レポート」「CSRレポート」「アニュアル レポート」等の名称の如何を問わず、2013 年度の年次報告として、2013 年 10 月までに上場会社ないしこれに準ずる会社が発表したものを対象に勝手審査を行った。

【審査ポイント】

- 1) IIRCが定める〈IR〉フレームワークに定められると見込まれる必須記載事項を反映して、当該発行体の価値創造ストーリーが簡潔明瞭に記されているか否か。
- 2) 過去の事業活動で達成された成果と残された課題が整理され、それと今期の実績との繋がりが明確にされていると共に、それを踏まえた将来の事業展開が、そのリスクと合わせて適確に見通せるようになっているか。
- 3) 営む各事業活動の価値創造ドライバーがKPIとして、経時的ないしピアグループ間で比較できるような形で提供され、KPIと開示する企業データとの繋がりが示されているか。
- 4) 事業活動の長期にわたる持続可能性を支えるコーポレート・ガバナンスが当該発行体に相応しい形で保たれているか。
- 5) 経営執行陣が自社の資本コストを自覚し、それを意識した経営に取り組んでいるか。
- 6) 企業の報告・開示は、主たるステークホルダーを意識するとともに、その他のステークホルダーに対しても、適確な開示メディアを選択活用してそれらの情報ニーズに込えているか。

【WICI ジャパン「統合報告」表彰審査委員会】

- 委員長 鈴木 行生(日本ベル投資研究所)
- 委員 山本 高稔(富士重工株式会社)
- 松島 憲之(三菱UFJモルガン・スタンレー証券)
- 佐藤 明 (株式会社バリュークリエイト)
- 清水 倫典(Gマネジメント アンド リサーチ)
- 川原 稔 (株式会社バリューレイザー)
- 長友 英資(株式会社ENアソシエイツ)
- 本多 淳 (阪南大学非常勤講師)
- 宮永 雅好(株式会社ファルコン・コンサルティング)
- 神藤 浩明(日本政策投資銀行 設備投資研究所)
- 小西 範幸(青山学院大学教授)
- 與三野 禎倫(神戸大学准教授)
- 委員会事務局 花堂 靖仁、菊池 慶輔、

【審査手順】

- 1) 委員会事務局が次の手順により予備審査を行った。
 - ①東京証券取引所市場第一部上場銘柄のうち 2013 年 8 月 20 日の時価総額上位 200 社をリストアップした。
 - ②この 200 社について、上記「審査ポイント」に照らし、名称の如何にかかわらず WICI の「統合報告」に相当するアニュアルレポートと判断できる発行体として 61 社を選別した。
 - ③その他に、時価総額 200 社には含まれていないが「統合報告」に相当するアニュアルレポートを作成していると判断できる発行体 10 社を加えた 71 社を<WICI「統合報告」優秀企業賞(以下 優秀企業賞)>の予備審査評価対象第一次候補企業(以下、第一次候補企業)とした。
 - ④上記の第一次候補企業を選別にあたって、発行体のホームページを丁寧に見ることになったので、その過程で<Web 統合開示特別賞(以下 Web 特別賞)>の予備審査評価対象第一次候補企業 13 社を選別した。
 - ⑤上記③および④で選別した予備審査評価対象第一次候補企業について、上記の「審査ポイント」を「統合報告」の一般的な構成に応じた具体的な評価項目に分解して委員会事務局が独自に作成した「WICI統合報告優良企業審査シート(以下 審査シート)」により評価を行った。なお、同審査シートの作成に当たっては、IIRCの「統合報告フレームワーク案」を含め関係する各種資料を参照した。
 - ⑥「WICI統合報告優良企業審査シート」による評価にもとづき、一定以上の評点を得た発行体から優秀企業賞の本審査候補企業 33 社および Web 特別賞の本審査候補企業 7 社を選び、それらを審査委員に提示し、本審査から除くべき企業ないし本審査に新たに追加すべき企業の有無を照会した。
- 2) 審査委員が次の手順により本審査を行った。
 - ⑦審査委員から本審査候補企業についての削除・追加の申し出はなかったため、優秀企業賞の本審査候補企業 33 社および Web 特別賞の本審査候補企業 7 社を本審査対象企業として、審査委員が審査シートによる評価を行った。
 - ⑧審査委員の審査シートが揃ったところで、審査員が集い、審査委員長の司会進行のもと、最終審査会を催した。優秀企業賞については、第 1 回目の最終審査会で優秀企業賞候補を 7 社に絞り込んだうえで、審査委員全員による再審査を経て第 2 回目の最終審査会を開催し、上掲の優秀企業賞受賞 3 社とする審査結果を得るところとなった。他方、Web 特別賞については、2 回の審査会を経て本審査候補企業 7 社から 2 社に絞り込み、審査シートの再チェックを経て、上掲の Web 特別賞を 2 社とする成案を得た。

※第1回WICIジャパン「統合報告」表彰授賞式においでの際は、会場受付で取材の旨をお伝えいただき、お名刺を提出いただきますようお願い申し上げます。

【連絡先】WICI ジャパン事務局

〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学大学院商学研究科 11 号館 1139 号室
西山 茂 研究室内
担当 花堂 靖仁(電話 090-3912-2729) 瀬川知恵子(電話 090-8728-8863)